

國學院大學學術情報リポジトリ

『國學院大學国学研究プラットフォーム』の展開：
明治期の国学・神道関係人物を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 遠藤, 潤 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001873

『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開 —明治期の国学・神道関係人物を中心に—』

プロジェクト責任者 遠藤 潤

研究開発推進機構日本文化研究所の神道・国学研究部門では、2011年度に、神道・国学の研究を遂行する拠点としての「國學院大學 国学研究プラットフォーム」（以下「国学研究プラットフォーム」と略する）を設定した。これは恒常的な組織を意味するものではなく、国学に関わる学内外のさまざまな研究活動の連絡ハブとなるとともに、研究の基礎的情報を蓄積していく拠点を指向している。具体的には、『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築』（2011～2013年度）と『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究』（2014年度）という、2期4年間にわたる研究事業および今回の研究事業の一年目において、「国学研究プラットフォーム」の運営が行われてきた。これらを継承・発展させるために計画されたのが、研究事業『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—』であり、2015年度から3か年の予定で開始された。

この研究事業の目標は「国学研究プラットフォーム」を拠点として、「国学研究の基礎的データ構築」および「国学に関する研究連携のための組織づくり」を継続・発展させることにある。今回の研究事業での具体的なデータ構築としては、明治期の神道・国学・宗教関係人物の基礎的情報の収集・整理を実施し、また組織づくりについては、これまで定期的に開催している国学研究会を運営するとともに、人物関係の収集情報や研究会などで得られた研究情報の公開を行う。

このような一連の研究活動を展開するのは、これまで國學院大學、なかでも日本文化研究所、研究開発推進センター、研究開発推進機構などが蓄積してきた研究成果を、人物をインデックスとして再整理し、基礎的な情報を、特定の視点から集約・再検討するとともに、現在までの研究成果をあらためて取り込むかたちでの人物情報の収集を行うことを企図してのことである。

2015年度研究事業の成果

I 国学に関する基礎的研究

最初に、教導職のリストを作成した上で、先行の諸業績に基づき、明治期の国学・神道・宗教関係人物の情報を再確認した。その作業の結果、1,096名の国学・神道関係人物、337名の教派神道関係人物、141名の仏教者をリストアップすることができた。また、2015年9月8～10日、12月26～27日には京都市立総合資料館や京都市歴史資料館などで、明治期京都の宗教行政や主要寺社の動向、および神官・僧侶の人物情報に関する資料について、2016年2月19日には国立歴史民俗博物館にて明治期平田国学関係の資料について調査を行った（調査については「出張報告「研究事業『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開』による史料調査」」を参照）。

II 神道・国学に関する基礎的データの整理・公開

調査項目やデータ入力の形式について協議

した上で、上記の「Ⅰ 国学に関する基礎的研究」で作成したリストから、明治宗教行政に深く関与した重要な人物をピックアップし、人物情報の収集・整理を進めた。具体的には、①高位の教導職（権少教正以上）に補任された人物、②近代神道史・仏教史・宗教史研究で著名な人物（今泉定助、大内青巒など）、③先行研究の多い人物、を優先的に取り上げることとし、優先度別に分類した。下半期からは、このうち主に優先度 A に属する人物（井上頼圀、鴻雪爪、赤松連城や畔上椽仙など）の項目作成を進めていった。

Ⅲ 国学に関する研究連携のための組織づくり

国学研究会を継続的に実施し、神道・国学・宗教を専門とする学内外の若手研究者による発表が行われた。一方、社家文書研究会も継続的に実施し、学内外の参加者を交えて井上頼圀宛の平田鏡胤書簡の読解と書簡の翻刻を進めた（詳細については、「2015年度の特ピック「国学研究会・社家文書研究会」」を参照）。

以上、2015年度研究事業として予定していた計画はほぼ実行できたと判断している。

2016年度の実施計画

Ⅰ 国学に関する基礎的研究「近代の神道・国学関係資料の調査ならびに重要な人物を焦点とした先行研究の調査・検討」

- (1) 研究事業2年目として、先行の目録類などでの明治期に活動の見られる人物の確認を前提として、当該期の国学者、神道関係人物、教派神道関係人物などに関する著書・論文についての網羅的なリストの作成などを継続する。

さらに2016年度は、これまでリストにあがった人物のうち、先行研究が充実しているかどうかなどを勘案して重要な人物を選定し、より重点的な調査・研究を行う。

具体的には、2015年度までの調査により、幕末から維新时期にかけての国家的教化活動、神社行政の分野で活動し、今日に資料を残した人物である西川吉輔は、仏教など諸宗教との関係においても興味深い活動を行った可能性があることが判明した。2016年度は、滋賀大学経済学部附属史料館所蔵の西川吉輔文書など、西川の関連の史料をわれわれの視点で見直し、当該時期の神道、国学、宗教に関する研究を深めるため、出張調査を行う。

- (2) 上記(1)とあわせて、近代における国学から関連領域（信仰、学問、その他）への展開の調査・研究、すなわち人物研究を切り口として、江戸後期から明治期にかけて国学を学んだとされる人々が、近代に入ってから教派神道や仏教その他の信仰へと活動を広げた様子、あるいは、明治期に新たな国学研究（明治国学、近代国学）をはじめ文献学や近代の人文諸学などに学問を展開させた様子などを、一次文献や先行研究の調査を踏まえて研究し、重要な史料については必要があればマイクロフィルムからの複写も行う。

Ⅱ 神道・国学に関する基礎的データの整理・公開「明治期神道・国学関係人物の基礎的データをもとにした項目執筆と定期的な検討」

- (1) 明治期の国学者および神社・教派神道関係人物に関する先行の目録、「国学関係人物データベース」の記載事項の確認ならびに関係分野の先行研究の確認と内容の検討、ならびに調査項目やデータ設計などの具体的検討とともに基礎的データに基づいて項目を執筆する。
- (2) 明治期の国学者および神社・教派神道関係人物に関する基礎的データの収集・整理を行う。
- (3) 「国学研究プラットフォーム」によるこ

れまでの研究成果の整理と発信、旧日本文化研究所収集資料の現存状況の確認も継続して行う。

Ⅲ 国学に関する研究連携のための組織づくり 江戸時代後期から明治期までを主たる範囲

とした報告を順次行う国学研究会を月1～2回程度開催する。また、主として神道・国学関係一次文献の読解・学習や史料に関する研究情報の交換などを目的とした、社家文書研究会を運営する。